

こどもの体調に 合わせた食事のポイント

【監修】大阪市こども青少年局子育て支援部管理栄養士

こどもが病気になったとき、何を食べさせたら症状の回復によいのか非常に悩むものです。こどもは、病気の時、何らかのシグナルを必ず発しています。しっかりと受け止め、早めに受診させ、医師の指示を守りましょう。

病気の際の食生活

病気の際

- ・治療の妨げにならないよう、病気の回復を早めるよう心がけてください。
- ・食事形態や量を変えましょう。
- ・病気によって失われた栄養を追加補給しましょう。

回復時

- ・急性疾患の場合は、病状の悪化が早く、回復も早いので気を付けましょう。
- ・こどもは身体発達が旺盛なので、病後は病気中の発育の停滞を取り戻すような急激な発育現象がみられます。

症状別の食事対応ポイント

熱がある際の食事

- ・発熱時は非常に汗をかくので、脱水症状に気を付け、十分に水分補給してあげましょう。
- ・熱が高いときは多くのエネルギーが消費されます。エネルギー・たんぱく質の多い食品を与えてあげましょう。 たまご雑炊、ヨーグルト、りんご果汁、煮込みうどんなどのメニューが効果的です。
- ・脂っこいもの、消化に悪いもの、お菓子などは避けてください。

下痢・嘔吐の際の食事

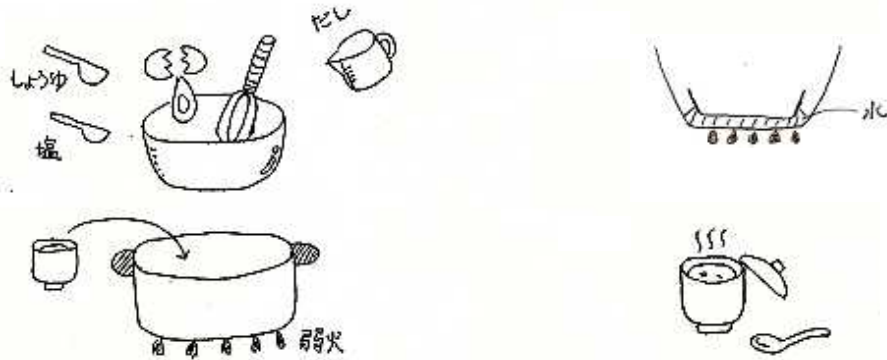
- ・軽い下痢のときは、水分補給が主体となります。 小児用のイオン飲料、野菜スープ、少し薄めた味噌汁の上澄みなどを与えてあげましょう。ジュースや大人用のイオン飲料は下痢を長引かせることがありますので避けてください。
- ・下痢のとき、主治医から絶食などの指示がない場合は、早期に食事を開始した方が、回復が早くなります。 その際、脂っこいものや甘いお菓子は避けましょう。また、乳児の場合は、母乳を中断したり、ミルクを薄めたりする必要はありません。
- ・嘔吐のときは、人肌程度のイオン飲料を少しずつゆっくりと与えます。 急にたくさん飲ませたり、酸味のあるジュースを飲ませたりすると、かえって嘔吐を誘発しますので気を付けましょう。

こどもの体調に合わせた食事メニューの紹介

(熱があるとき、下痢・嘔吐のときなど)

1 具なし茶碗蒸し

材 料	分量 (1人分)	作り方
卵 だし しょうゆ 塩	1コ(室温にする) 75 cc 少々 少々	卵をとき、しょうゆ、塩で味付けしだし汁とまぜ、耐熱の器に入れる。 大きめの鍋にお皿を入れ、お皿に水が入らない程度に水を入れて火をかける。 沸騰したら弱火にして、卵液を入れた器をお皿にのせる。 鍋のふたをして、そのまま卵液が固まるまで弱火で加熱する。

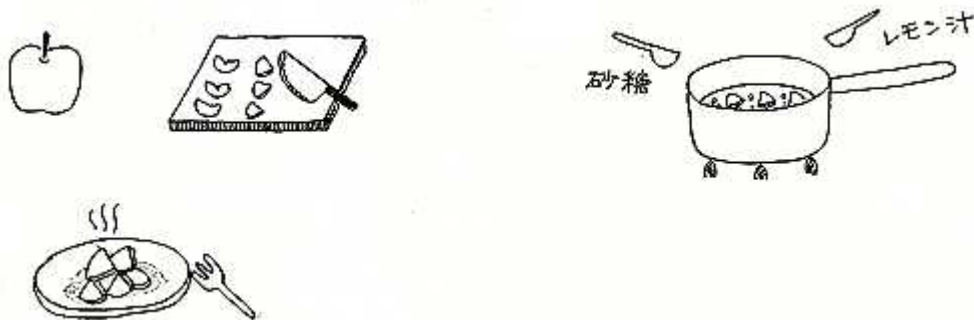


クッキングポイント

- ・ 熱があるときは、あら熱をとってから冷蔵庫で冷やしてもいいです。
- ・ 食欲があるときは、ささみやうどんなど消化がよく、脂肪分の少ない具を入れてもいいです。

2 りんごのくず煮

材 料	分量 (1人分)	作り方
りんご 水 砂糖 片栗粉 レモン汁	1 / 4 コ 適量 少々 適量 お好みで	りんごの皮をむき、いちょう切りにしてひたひたに水に入れた鍋で煮る。 砂糖を加え、お好みでレモン汁を少々入れる。 りんごが煮えたら水溶き片栗粉を流し入れてとろみをつける。



クッキングポイント

- ・ おなかがゆるいときはレモン汁を控えましょう。
- ・ 冷やして食べてもおいしいです。

病気のときによい食品・避けたい食品例

食品群	食品	かぜ	発熱	のど痛	下痢	嘔吐	便秘	口内炎
穀類	かゆ							
	うどん							
いも類	じゃがいも							
	さつまいも				×			
豆類	豆腐							
	納豆・煮豆				×			
魚介類	白身魚							
卵類	卵							
牛乳	牛乳				×	×		
乳製品	ヨーグルト				×			
	アイスクリーム							
野菜類	かぼちゃ							
	ブロッコリー							
	ほうれん草							
	ごぼう・筍・セロリ など				×	×		×
	人参							
きのこ類	しいたけ・えのき 茸・しめじなど							
海草類	ひじき・こんぶ							
	寒天							
果実類	りんご							
	みかん	×		×	×	×		×
	バナナ							
油脂類	油	×			×	×		
その他	プリン							
	ゼリー							
	スナック菓子	×	×	×	×	×	×	×
	炭酸飲料	×	×	×	×	×	×	×
	スポーツドリンク				×			

よい食品 避けたい食品 × 水分補給には白湯、番茶、麦茶がよい。

保護者へ伝えるツール例

食事だより

かぜをひいたら どんなものを食べたらいいの？

熱があるときや吐き気があるときなど、食欲がなくなることも多いですが、食べられるものから少しずつ食べるようにしましょう。

下記の食品の中から組み合わせて、食べやすく調理するとよいですね。

体の抵抗力をつける (たんぱく質)	      卵 豚肉 牛乳 魚 鶏肉 豆腐
ウイルスの侵入を防ぐ (ビタミンA)	     ブロッコリー かぼちゃ ほうれん草 人参 パセリ
体の抵抗力を強める (ビタミンC)	      白菜 大根 里芋 りんご みかん じゃがいも

症状にあった食事例

熱があるとき



熱によって水分とエネルギーがたくさん消費されがちですので上手に補給しましょう。

雑炊
煮込みうどん
スープ
果物
など

のどがいたい
せきがひどいとき



口当たりやのどごしのよい食品にします。カレーやこしょうなど刺激の強いものはさけるようにしましょう。

茶わん蒸し
ゼリー寄せ
アイスクリーム
など

下痢のとき



からだの水分が失われますので、十分な水分とミネラルを補給します。また消化のよいものを心がけましょう。

おかゆ
煮込みうどん
豆腐料理
スープ
など

テーマ「絵本」

絵本へのいざない プログラム

ねらい

絵本を通して、養育者とこどものコミュニケーションを豊かにする。

保護者自身も絵本に親しみ、読む楽しさを感じられるようにする。

主な活用場所

在宅子育て支援機関、保育所

主な対象者

0、1、2歳児とその保護者

はぐくみたい生きる力の基礎

養育者との愛着形成、外の世界への積極性・学びへの意欲

内容

概ね0～2歳のこどもとその保護者を対象として、絵本の読み聞かせを中心に、リズム遊びなども入れながら、こどもと大人が楽しい時間を過ごすプログラム。

プログラムの流れ

はじめのあいさつ・・・「あくしゅでこんにちは」

* 自己紹介とプログラムの目的や内容の簡単な説明をする。

歌ってあそぼう（その1）・・・リズムカルに歌いながら、表現遊びを楽しむ。

* 参加者と指導者（読み手）との間に楽しい関係を築く。

絵本の読み聞かせ・・・実物大の動物絵本や、逆さまにしたら絵が変化するしかけ絵本などをこどもと保護者が一緒に見て楽しむ。

* 絵本を見た後の充足感をたっぷり味わわせ、絵本の魅力を伝えるように配慮する。

歌ってあそぼう（その2）・・・歌詞や動きを楽しみながら、こどもと保護者でふれあう。

* 体をふれあいながら、コミュニケーションを楽しめるようにする。

おわりのあいさつ・・・「あくしゅでさようなら」

* プログラムが楽しく、満足感を味わってプログラムを終わるようにする。

【指導】大阪河崎リハビリテーション大学准教授 高瀬 敏幸

絵本へのいざないプログラムの実践事例

(プログラムを実践した在宅子育て支援機関や保育所の取り組み内容)

プログラムの流れ	はじめのあいさつ	
	歌ってあそぼう(その1)	大きな声で歌いましょう
	あたま かた ひざ ポン てをたたきましょう おべんとうばこのうた	ねらい：ボディイメージ ねらい：表現 ねらい：見立て表現
	絵本の読み聞かせ	実物大の動物絵本や、逆さまにしたら絵が変化する絵本、手品をテーマにした絵本など仕掛け絵本の楽しさをこどもと一緒に楽しむ
	「サーカスがやってきた」 よぐちたかお 作 (福音館書店)	絵が動くので、初めて見た人はびっくり。炎が燃えるシーンでは思わず手を出しアチチチチ。こどもも大人も楽しめる絵本。
	「きんきらきんのはでなやつ」 デビット・A・カーター 作 きたむら まさお 訳 (大日本絵画)	最近日本でも翻訳された。日本の絵本にはない迫力と、色彩感覚にびっくりする絵本。あまりの迫力にこわがるこどももいるが、小さいこどもから大きなこどもまで楽しめる絵本。
	ちょっとした仕掛けが楽しい絵本 「てじな」 土屋富士夫 作(福音館書店)	みんなで魔法の呪文をとねえると、あら不思議。いろんなものがあらわれます。
	等身大写真の迫力を楽しむ絵本 「ほんとおおきさ動物園」 福田豊文 写真 小宮輝之 監修 (学習研究社)	見ただけで写真の訴える力にびっくりする。余分な背景がカットされ、写真の効果を高めている。
	歌って遊ぼう(その2)	
	大きなくりのきのしたで やまごやいっけん 一本橋こちょこちょ など	ねらい：動作模倣 ねらい：動作模倣 ねらい：感覚遊び
終わりのあいさつ		

絵本を読む際のポイント

事前に絵本に目を通す。

楽しいと思った本は気持ちを込めやすい。

読み手自身が絵本を楽しんで読む。(楽しいことは長続きする。)

読まねばならないのではなく、こどもと一緒に読みたいと思える気持ちが大切である。

自然な読み方をすると、読み手の気持ちは聞き手に伝わりやすい。

- ・言葉がはっきり伝わるように心がける。
(ゆっくり、はっきり、適度な声の大きさ)
- ・効果音(擬音)を使う場合は練習が必要である。
効果音(擬音)はこどもを引き付ける魅力があるので、絵本を読むときには擬音の効果が増すよう、練習をしておくとうい。
- ・何よりも自分流の読み方でよいので、聞き手と一緒に絵本を楽しむ気持ちが大切である。

絵本を通して、こどもとのコミュニケーションを楽しむ。

絵本選びのポイント

<とびだし絵本>

いろんな所に仕掛けがあると、かえってこどもは集中しにくい。いつも真ん中から絵が飛び出すなど、次に起こることに心躍らせ予測しやすい絵本が望ましい。

絵本の実例

「のぞいているのはだあれ？」 キース・モアビーク 作 きたむら まさお 訳
(大日本絵画)

<絵だけの絵本>

絵の背景と事物が明確で、すっきりと描かれた絵本がよい。1枚の絵にたくさんの事物が描かれた絵本は、最初は避けたほうが望ましい。

絵本の実例

「どうぶつのおやこ」 藪内正幸 絵(福音館書店)
「じどうしゃ」 寺島竜一 絵(福音館書店)

<物語絵本>

)初めて物語絵本を与えるときは、言葉のやりとりが繰り返され、擬音がたくさん出てくる絵本が適している。

絵本の実例

「ノンタンあわぶくぶくぶぶふう」 オオトモヤスオミ・サチコ 作・絵(偕成社)
*「ノンタンあそぼうよ」シリーズは、擬音がいっぱいあった絵本である。

)物語絵本の初期は、ストーリーが簡単で、絵が分かりやすい絵本が適している。

絵本の実例

「ぞうくんのさんぽ」 なかのひろたか 作・絵(福音館書店)
*ページごとに絵が楽しく変化があり、こどもの期待がふくらむ絵本は、4~5歳児にも適した絵本である。短く繰り返しのある物語絵本が充分楽しめるようになった後には、内容に起承転結があり、物語の変化に富んだものがよい。

0、1、2 歳児の絵本との出会い

1) 0 歳児：絵本はオモチャの時期

この時期のこどもには、絵本はおもちゃのようで、絵本をひっぱったり、なめたり、かんだり、ときには破ったりすることもある。そうしながら、偶然、絵に目が止まり、声を出したり、笑ったり、「何かを発見したよ」というかのように、はしゃいだりする。

このように、こどもと絵本の最初の出会いは、偶然から生まれ、絵本への興味が徐々に膨んでいく。

親しみやすい動物や乗り物、食べ物などの具体物がていねいに描かれているものや、絵の対象が、上から横から後方からなど方向や視点を変えて描いている絵本はこどもの興味を広げる。

2) 1 歳児：おしゃべりを始める時期

おしゃべりを始める 1 歳児の頃は、身の周りの事物を題材にした絵が主体の絵本を好む。そして徐々に簡単なストーリーを楽しむことができるようになる。

こうしてこどもたちは、絵本を通して、事物や出来事を知り、こども自身と外の世界がつながっていく。

おしゃべりを始め、好奇心の芽生えが見られるこの時期は、言葉を発することが楽しくて、「これなあに」を連発して、物の名前を聞きたがる。これに対し、大人が「これは犬よ」「これは猫よ」と教えたり、ときには「これはなあに」とこどもに尋ねたりして、こどもの興味を触発することも大切である。

絵本にあまり興味を示さないこどもには、ポップアップ（飛び出す）絵本などのしかけ絵本を見せることも有効である。

3) 2 歳児～：言葉でのやりとりが楽しくなる時期

言葉でのやりとりが楽しくなるこの時期、言葉に快い響きがあり言葉を大切にしたい絵本が適している。まだこどもの言葉の量も、まわりの人の話す言葉を理解する力も十分ではないので、大人は、はっきりと、分かりやすい言葉を使うことで、こどもが言葉の意味を実感できるようになる。

絵本の中には擬音語（雨がザ - ザ -、風がピュ - ピュ - など）、擬態語（うさぎがピョンピョン、象がのっしのっしなど）、擬声語（ワンワン、カ - カ - など）がよく用いられており、身の周りの事物と関連する音や声に親しむことで、こどもの想像力がはぐくまれる。

こどもの日常によくあることが絵本の題材になり、言葉や出来事の繰り返しがある内容をこどもたちは好む。また、想像力を引き出すためには、人物や動物のしぐさや表情、動きが、絵や言葉で豊かに表現された絵本が望ましい。

保護者に抱かれたり、寄り添ったりして、その語り口調（ここちよいリズム）に耳を傾け絵本に親しむ体験が、豊かな心を育てる素地になる。

テーマ「絵本」

イメージを広げる 絵本の読み聞かせ

主な活用場所

在宅子育て支援機関、保育所、幼稚園

主な対象者

2、3歳児（0～5歳児）・保護者

ねらい

言葉・リズム・身体表現などの相乗効果により絵本体験を深める。

絵本のストーリーを楽しみ、豊かな情緒（喜怒哀楽を感じる気持ち）をはぐくむ。

乳幼児期の言葉の育ちをサポートする。

子育てに絵本を取り入れ、絵本を通して親子のコミュニケーションを促進する。

はぐくみみたい生きる力の基礎

外の世界への積極性・学びへの意欲、養育者との愛着形成、
自我の芽生え・社会性の芽生え

内容

イメージを広げる絵本の読み聞かせ

言葉の育ちの過程を踏まえ、伝承のわらべ歌遊びや絵本などを組み合わせて、親子でふれあいながら楽しむプログラムを実施することで、絵本にあまり関心をもたない保護者に対しても、絵本の選び方や楽しみ方について提案することができるとともに、言葉を育てること、絵本を取り入れることの動機付けができる。

全体の流れ（展開）のスムーズさ、季節感などに留意し、また、言葉、リズム、身体表現などの関連付けと相乗効果により、体験を深めることをねらいとする。

<プログラムの内容>

- ・ 家庭での子育てに取り入れやすく、繰り返し遊べ、応用もしやすい内容とする。
- ・ 定番として親しまれ、単純で親しみやすいもの（絵本、お話、伝承のわらべ歌）を中心に構成する。
- ・ こどもの言葉の育ちに即した言葉かけ、声かけ、絵本やお話を楽しむことの大切さを保護者に啓発する。

イメージを広げる絵本の読み聞かせの実践ポイントと効用、絵本選びのポイント

<実践ポイントと効用>

伝承のわらべ歌遊びの効用を生かす／目と目を合わせて真似をする／季節感のある歌遊びで、体験と言葉、イメージを結び付ける「音の言葉」と絵本と遊び／昔話の効用

<絵本選びのポイント>

0歳児・1～3歳児・3～5歳児ごとに絵本選びのポイントを紹介する。

【指導】大阪樟蔭女子大学講師 神村 朋佳

イメージを広げる絵本の読み聞かせの実践事例

(プログラムを実践した在宅子育て支援機関の取り組み内容)

実践例 1

対 象	0 歳児から 5 歳児までの子どもと保護者
プログラムの流れ	
<p>第 1 部 親子で楽しむプログラム</p> <p>伝承のわらべ歌遊びを楽しむ おはようの歌・ はなさかんひらいた・ はるかぜ ふー ここはてっくび・ あがりめさがりめ</p> <p>絵本を一緒に楽しむ 『でてこいでてこい』 林明子 作 (福音館書店) 『もこ もこもこ』 谷川俊太郎 作 元永定正 絵 (文研出版) 『しろくまちゃんのほっとけーき』 わかやまけん 作 (こぐま社)</p> <p>伝承のわらべ歌遊びを楽しむ たまごでお料理 絵本を一緒に楽しむ お話「くまさんのおでかけ」 中川李枝子作 (『おはなしのろうそく 1』東京 子ども図書館発行に収録) パペットを使って 『三びきのやぎのがらがらどん』 マーシャ・ブラウン 絵 瀬田貞二 訳 (福音館書店)</p> <p>伝承のわらべ歌遊びを楽しむ くすりやのまえて・ さよならあんころもち</p> <p>第 2 部 保護者へのお話 伝承のわらべ歌遊びを楽しみ、絵本を楽しむことで育つことを伝える。 保護者も子どもとともに、遊びや絵本を体験することのよさを伝える。</p>	

実践例 2

対 象	0 歳児から 5 歳児までの子どもと保護者
プログラムの流れ	
<p>第 1 部 親子で楽しむプログラム</p> <p>伝承のわらべ歌遊びを楽しむ おはようの歌・ ここはてっくび</p> <p>絵本を楽しむ 『とってください』 福知伸夫 作 (福音館書店)</p> <p>伝承のわらべ歌遊びを楽しむ はるかぜ ふー・ どんぐり</p> <p>絵本を楽しむ 『きょだいなきょだいな』 長谷川摂子 作 降矢なな 絵 (福音館書店) 魔法の呪文「たかずくたかずく」 『ちいさなちいさなおばあちゃん』 エルサ・ベスコフ 作・絵 石井登志子訳 (偕成社) 『こびととくつや グリム兄弟の童話から』 カトリーン・プラント 著 藤本朝巳 訳 (平凡社)</p> <p>伝承のわらべ歌遊びを楽しむ いとまきの歌・ さよならあんころもち</p> <p>第 2 部 保護者へのお話 伝承のわらべ歌遊びを楽しみ、絵本を楽しむことで育つことを伝える。 保護者も子どもとともに、遊びや絵本を体験することのよさを伝える。</p>	

= 歌・わらべ歌遊び = 昔話に出てくるとなえ言葉を用いた遊び

イメージを広げる絵本の読み聞かせの実践ポイントと効用

1) 伝承のわらべ歌遊びの効能を生かす

日本語の音の感覚・語感、風土に根ざした自然観や季節感が謳われているわらべ歌遊びを通して、歌、言葉とリズム、ふれあいなどが渾然一体となって、「叱る、あやす、気をそらせる、ほめる、はやす、さらには希望や願い」までも子どもたちに伝えることができる。

単純な繰り返しの多いわらべ歌遊びを繰り返すことで、リズム、パターン、動作を伴って、言葉（意味、語感、イメージ）の定着、自ら音声を発する楽しさ、音やリズム、言葉やりとりを楽しむ感覚がはぐくまれる。

2) 目と目を合わせて真似をする

乳児期に重要な目と目を合わせることは、言葉の育ち、コミュニケーションの育ちの土台となる。

乳幼児とのわらべ歌遊びは、目と目を合わせる、向かい合わせの相手の真似をするという動作を促し、人とのコミュニケーション（やりとり）の基盤をつくる。また、身体各部位（手・足・目・耳・鼻・耳など）への意識を高め、操作性、技巧性を高める。

あがりめ、さがりめ【目を上、下、一回転させる、目を合わせる（にらめっこ）】

3) 季節感のある歌遊びで、体験と言葉、イメージを結び付ける

「春風ふー」「どんぐり」などの遊びは、自然への感性を高めるとともに、音声、動作の相乗効果で言葉とイメージを結び付ける。実際に戸外で風に吹かれながら、葉っぱの落ちる様子を見て、どんぐりや葉っぱを拾い集めるなどの実体験と合わせ、何度も繰り返し歌い遊ぶことで、体感・体験・イメージに裏打ちされた生きた言葉が獲得される。

はるかぜ ふ～ 春風ふ～桜の花びら ひ～らひら

秋風ふ～もみじのはっぱも ち～らちら

「ふ～」という風の音と同時に、実際に息を吹きかけ、息でふれあう。

空気の動き、くすぐったさ、涼しさ、暖かさを感じる。「桜の花びら」で手をひらひらさせ、「ひ～らひら」でくすぐり遊びをする。

八行音の連なりから、桜の花びらの小ささ、軽やかさ、風に舞う様子がイメージされる。一方で秋風の「ち～らちら」からは、瞬間、はかなさ、短さ、もみじの葉っぱが翻りながら落ちていく情景がイメージできる。

どんぐり どんぐり どんぐり こーろころ

どんぐり どんぐり こーろころ

ころころ ころころ こーろころ

手をグーにして、どんぐりに見立て、身体の前で音楽に合わせて転がすしぐさをする。小指、親指、最後にこぶしと変えて小さいどんぐりから大きいどんぐりまで表現してもよい。

4) 「音の言葉」と絵本と遊び

日本語には、擬音語、擬態語など「音の言葉」が豊富である。

日本語の音の言葉は、乳幼児にとって、音の重なり、繰り返し、リズムのここちよさがあるだけでなく、ものの性質や人間にとっての意味を伝える上で、大変重要な言葉である。

(『三びきのやぎのがらがらどん』でやぎが橋を渡る様子の表現など)

音と音から生まれるイメージと絵がぴたりと合い、ここちよい音の流れを楽しむ絵本は0歳児に圧倒的に支持される。(『もこ もこもこ』など)

身近な生活場面と「音の言葉」の結び付きが表現されている。(『しろくまちゃんのほっとけーき』『ぼたあーん だろどろ ぶつぶつ やけたかな まーだまだ しゅppetたーん ふくふく くんくん はい できあがり』という音につれて、ホットケーキが焼きあがる場面を描く。)

「大きいもの」と「小さいもの」(絵本)、「高い」と「低い」(言葉遊び)
(大きさと小ささをリズムカルに表した絵本『きよだいなきよだいな』『ちいさなちいさなおばあちゃん』などの読み聞かせと、高低の対比を織り込んだ言葉遊び「たかずくたかずく」を組み合わせ、目で見、耳で聴き、自らの体を動かすことにより、言葉から生まれるイメージを体感する。)

5) 昔話の効用

語り伝えられてきた昔話は、耳で聞いてイメージしながら話の筋を追って楽しむものである。単純な言葉で語り伝えられてきた昔話を繰り返し聞くことで、言葉からイメージし、楽しみながら人の話を聞く、先を予測する、結末への期待を膨らませながら辛抱強く待つ姿勢が生まれる。

幼児向けの絵本やお話には、昔話の影響を受けたもの、昔話のような物語の形式を踏襲したものに優れた作品が多い。3～4歳からは、絵本と同時に少しずつ耳から聞く読書にもふれる機会をもたせたい。

(『三びきのやぎのがらがらどん』『ちいさなちいさなおばあちゃん』『こびととくつや グリム兄弟の童話から』など)

イメージを広げる絵本選びのポイント

0歳児：はじめての絵本として、「物の絵本」に先立って「音の絵本」がある。

- ・ 擬音語、擬態語は、人間が物をどうとらえているかを表現しイメージとして伝えるため、乳幼児にとって重要な情報源であり、音声のこちよさ、語感を楽しみながら、自ら音声を発する動機付けとしても有意義なものである。
- ・ この時期は、言葉の繰り返しのリズム、パターンが重要であるので、声に出して読んでみてこちよいかどうか、場面の繰り返しで構成されているものなど、乳児の認識しやすい構造になっているもの、色の濃淡、明暗を含めて何が描かれているかが、はっきり認識しやすい絵本を選ぶのが望ましい。

「じゃあじゃあびりびり」まついのりこ 作（偕成社）

「どうぶつのおやこ」藪内正幸 作（福音館書店）

「いないいないばあ」松谷みよ子 文 瀬川康男 絵（童心社）

1～3歳児：1歳前後は、指差しをし、絵本を見ながら様々な反応を見せ、おしゃべりを始める時期。

- ・ こどもの反応に合わせて、「何かな」「だね」などと、答えたり話したりすることで絵本の楽しみが広がる時期であり、絵本をコミュニケーションの場として、どんどん声かけ、言葉のやりとりを楽しみたい。
- ・ 1歳前後から、数場面のつながりだけでなく、全体として、ひとつながりのお話が理解でき、単純な物語を楽しめるようになる。こどもたちが共感しやすい身近な素材やテーマの絵本を選ぶ。
- ・ こどもは、行きつ戻りつしながら成長していくため、あかちゃん絵本も繰り返し読むとともに、新しいものにチャレンジしながら、少しずつ多様なものに出会うようなサポートが必要である。

「のせてのせて」松谷みよ子 文 東光寺啓 絵（童心社）

「しろくまちゃんのほっとけーき」わかやまけん 作 もりひさし 作

わだよしおみ 作（こぐま社）

「おでかけのまえに」筒井頼子 文 林明子 絵（福音館書店）

3～5歳児：絵本の世界を存分に楽しめる時期であり、乳幼児からの積み重ねがあれば、少しずつ自分で絵本を選べるようになる。

- ・ こどもの世界がぐんと広がり、生活体験も増え、様々なものに興味をもつ時期であり、こどもの生活は不思議や驚き、謎や発見に満ちている。そうした時期のこどもの欲求を満たす絵本を探す。
- ・ 世界各国の昔話の壮大な世界、奇想天外な面白さも4、5歳くらいから十分に楽しめるようになる。

「やあ！出会えたね ダンゴムシ」今森光彦 文・写真（アリス館）

「ふゆめがっしょうだん」富成忠雄 写真 茂木透 写真 長新太 文（福音館書店）

「これはのみのぴこ」谷川俊太郎 作 和田誠 絵（サンリード）

テーマ「絵本」

言葉を育てる絵本の読み聞かせからオリジナル絵本へ

ねらい

こどもとの会話を楽しみながら、こどもの言葉（語彙）を育てる。

こどもの好奇心・興味をのばし、自ら絵本とかかわることを通じて、クラスの仲間意識をはぐくむ。

主な活用場所

保育所、幼稚園

主な対象者

3、4、5歳児

はぐくみたい生きる力の基礎

外の世界への積極性・学びへの意欲、自分も他人も大切にできる心

内容

絵本の様々な読み聞かせの方法があり、最もよいやり方というものはない。様々なやり方で絵本の読み聞かせをすることにより、様々な面からこどもが絵本に親しんでいくことが大切である。そのうちの一例を紹介する。

言葉を育てる絵本の読み聞かせ

【ダイアロジックリーディング】

ダイアロジックリーディングは、アメリカの研修者Whitehurst 他によって提唱されている「あれこれ質問する」読み方である。この読み方は、こどもの語彙の増加や考え、本をどのように読むかという、後々の読む行為や学習につながるものである。

絵本づくり

こどもたちが自ら絵本にかかわることで親しみをもつことを目的とする。

【オリジナル絵本】

こどもたちが、それぞれ「自分の好きなもの」の絵をかく。

こども一人一人から、何の絵をかいたのか、登場人物は誰なのかなど、絵の設定を聞き取る。

こどものかいた絵をつなぎ合わせて、ひとつのお話をつくる。

クラス全員が登場するオリジナル絵本に仕上げる。

例えば、遠足や運動会など、クラスみんなで楽しんだ行事の思い出を、こどもたちがそれぞれ場面を担当して絵本をつくる。

【指導】大阪女学院大学教授 加藤 映子

言葉を育てる絵本の読み聞かせ

「ダイアロジックリーディング」とは

こどもへの絵本の読み聞かせは、養育者との愛着関係を深めることにつながることも、日本で紹介されている読み方は、「あれこれ質問せず、こどもと絵本の時間を楽しみましょう」といったアドバイスが多い。ダイアロジックリーディングは、こどもの言葉や表現力を育てる読み聞かせの方法であり、「あれこれ質問する」読み方である。1980年代以降、アメリカで絵本場面による親子のやりとりの研究が進められ、その流れの中でWhitehurst 他により紹介された。

ダイアロジックリーディングによる質問の形式

ポイント

- ・言葉のモデルの提示
- ・こどもに問いを出す
- ・こどもの反応にフィードバックする
- ・知的な描写をこどもから引き出す

) 何、どこ、いつ、誰などを尋ねる。このタイプの質問はこどもの語彙を増やす。首を振るだけで答えられる (yes / no) 質問は避ける。

「　　さんはどこにいくの?」　「これは何?」

) こどもたちが自由に自分の考えを述べ、意見を言えるような質問をする。思考力、表現力、想像力を育てる質問である。

「　　さんがこんなことをしたらどうなると思う?」

「　　さんはこんなことをしてもいいの?」

) こどもが答えたときにはほめる。これはこどもが自信をもち、積極的に絵本にかかわる姿勢を育てる。

「そうね。　　ね。」

) こどもに言葉のモデルを示す。こどもの発話は1語で答えるものが多いが、1語で答えた場合には、それを文章にして提示する。

おとな: 「誰の足跡だと思う?」

こども: 「くまさん」

おとな: 「くまさんの足跡かもしれないね」

) こどもの発話を発展させる。

おとな: 「この子の名前は何?」

こども: 「うさこちゃん」

おとな: 「そうね。うさこちゃん。うさぎさんのあかちゃんだからね。」

) こどもの興味と関連させる。絵本と現実の世界を結び付ける。

おとな: 「これは何?」

こども: 「ばった」

おとな: 「そうね。　　くんもばった探るのが大好きね。」

ダイアロジックリーディングの実践事例

(プログラムを実践した幼稚園の取り組み内容)

5歳児クラス 絵本「もりのドギマギ」 舟崎克彦 文 橋本淳子 絵 (文溪堂)



こどもの記憶を問う質問

「この子誰だった？」と主人公の名前を問う。こども自身が登場人物の絵にかかれてある台詞を読むという積極性を見せた。文字をすでに知っていることが確認できる。



こどもの語彙を問う質問

「2万年前ってどれくらい前？」というこどもの語彙を問うと、こどもは「ずっとずっと前」と答えていた。これはその言葉を知っているにとどまらず、ある言葉を自分の言葉で説明できることを示している。



お話の展開の予測

お話の展開をこどもが予測する。怪獣が「ガオウ」と叫ぶというところで読み手はとまり、こどもの反応を待つ。これはお話の展開を予測するものであり、読む力を育てる上で必要なものといえる。



こどもが自ら絵についてコメントする

こども自ら「舞踏会で踊っているみたい」と絵を描写する。こどもが絵を何かに例えることができることを示す。また、舞踏会という言葉は日常会話で使う言葉ではないが、このこどもは舞踏会という言葉を他の絵本などで学んでいることを示す。



語彙のチェック

「炎って知ってる？」という問いに対し、「火のこと」と違う言葉でこどもが説明している。こどもが違う言葉で表現できることを示す。



最初と最後の比較

最初と最後のお話の内容をページに戻って、こどもと一緒に確認する。

前に戻って、楽しみながら確認をすることは大切なことである。

～ダイアロジックリーディングの絵本紹介～

ダイアロジックリーディングは、こどもの語彙や考えを引き出す読み聞かせであるが、ダイアロジックリーディングだけが唯一の読み聞かせ方法ではないこと、絵本によってはその文章のリズムなどの感性を味わうものがあることを理解しておく必要がある。

絵本の文章に込められた音やリズムを楽しむ絵本は、ダイアロジックリーディングには向かない。「どこに がいる」「これは誰」「誰がくるのかな」「何になるんだろう」といった質問が出しやすい絵本が向いている。自然とこどもと対話できるような絵本が向いている。ただし、無理矢理質問をつくる必要はない。

ダイアロジックリーディングを行わない絵本でも、最後に「この絵本おもしろかった?」「好き?」「どんなところがおもしろかった?」とひとこと尋ねることも、こどもの考えを引き出すことになる。

ダイアロジックリーディングにお勧めの絵本を以下に紹介する。なお、自分で読んで判断することが大切である。

「はらぺこあおむし」 エリック＝カール 著・絵 もりひさし 訳（偕成社）

「ぐりとぐら」シリーズ 中川李枝子 文 大村百合子 絵（福音館書店）

「わたしとあそんで」 マリー・ホール・エッツ 文・絵 与田準一 訳
（福音館書店）

「またもりへ」 マリー・ホール・エッツ 文・絵 まさきりこ 訳
（福音館書店）

「おおきなかぶ」 トルストイ再話 ニーアム・シャーキー 絵
中井貴恵 訳（ブロンズ新社）



オリジナル絵本をつくろう

絵本づくりのねらい

こども自らが絵本づくりにかかわることで、絵本への興味を更に引き出し、5歳児にとって絵本が遊び道具のひとつとなりうることを示す。

オリジナル絵本づくりの実践事例

(プログラムを実践した幼稚園の取り組み内容)

こどもたちが好きな絵をかき、その絵にストーリーをつけて、オリジナル絵本をつくる取り組みは、こどもの絵本への興味を引き出すきっかけになる。いろいろな作成方法があるが、そのひとつとして、パソコンを活用したオリジナル絵本づくりを紹介する。

ステップ	概要
1	こどもが自分の好きな物、人物、場所などの絵をかき、保育者などが、こどもたちにその絵の説明を尋ね、登場人物の名前や場所、絵の設定などを記録する。
2	ステップ1でこどもたちがかいた絵をスキャナーで取り込む。
3	ステップ2でデジタル化した絵をもとに、絵本の筋や構成を考える。Macintosh コンピュータ付属のソフト iPhoto 上で、絵を順番にならべ、それぞれの絵にお話を付けていく作業を行う。その際、こどもたちから聞き取った絵の説明をできるだけ尊重し、次の点に留意する。 <ul style="list-style-type: none">・ 表紙の絵は話の内容をよく表現しているものを選び、表紙の絵のこどもが1ページ目の本文に登場するようにする。・ 絵をかいたこどもがそのページの主人公になるようにする。・ こどもたちの絵についての説明を、できるだけ話の内容に組み込むようにする(話の展開上、多少変更したり、創作したりすることもある。戦争や悪者といった内容のものの採用は避ける)。
4	絵本のゲラ原稿をカラープリンタで印刷し、話の内容及びこどもの名前のチェックをする。チェック終了後、オンライン上の iPhoto プリントサービスに依頼する。
5	完成した絵本はこどもたちのクラスで読み聞かせを行う(こどもたちは自分の絵がいつ出てくるか目をきらきら輝かせながら、自分たちの絵本を楽しんだ)。
6	作品展で展示し、保護者に絵本を紹介する。

完成した絵本のイメージ



「みんなでキャンプ」



「だんじりにのって」



「うちゅうからのおともだち」

(幼稚園5歳児クラスで作成した絵本の紹介)

オリジナル絵本づくりの活用

遠足や行事の後に、こどもたちと絵本をつくる。その時に、どんな絵をかくか、どんなお話にするかをこどもたちとともに考え、つくっていく。

- ・こどもたちがストーリーの展開を考えることによる想像力や思考力の発達につながる。
- ・どのような言葉を選ぶかなど、話し言葉から書き言葉への学習の基礎となる。
- ・絵本を自ら作成することで、絵本や本の世界と積極的にかかわる姿勢を培うことができる。

絵本の読み聞かせの基本と 年齢に応じた絵本の紹介

絵本の読み聞かせの基本

【指導】大阪樟蔭女子大学講師 神村 朋佳

絵本とは

絵本の色々……

- ・物語に挿絵がついた本と絵本
- ・写真集と写真絵本
- ・「こどもに伝える」絵本

絵と文の関係が重要！

閉じられ、めくられる
ことで、絵に動きが生
まれる

絵本はいろいろな部分から構成されている

表紙、見返し、とびらからはじまる物語
表紙にはじまり奥付、裏表紙まで、とことん読もう

(参考例) 『おおきなかぶ』(福音館書店)

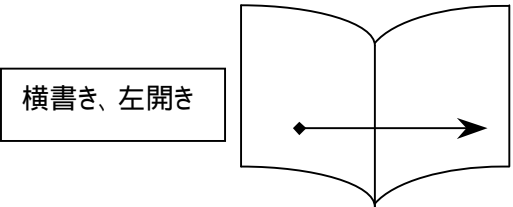
この絵本は、表紙と裏表紙がつながり、最終場面となっている。最後にぱたんと絵本を閉じたままの状態で見返しを開けると、画面が倍の広さに広がって、最終場面となる。

(参考例) 『いないいないばあ』(童心社)

この絵本では、扉ページで、ねずみがページターナーとして機能し、絵本の世界へ読者を誘う。ねずみの場面だけ、「こんどは誰だろ？」と問いかけることで、ねずみの存在を読者に意識させ、奥付ページで、退場するねずみの姿を見せる。ぱたんと本を閉じると、裏表紙でねずみが手を振っている。

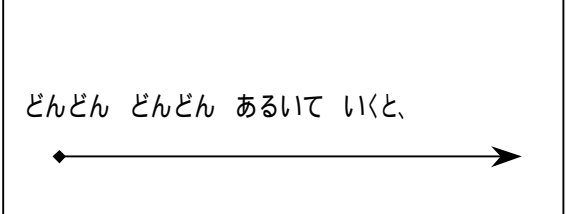
絵本の表現 縦？横？ 右？左？

流れと方向性 絵の動き
 文字と絵の位置関係
 方向性から生まれる心理的な意味
 日本語（縦書き）による絵本の可能性

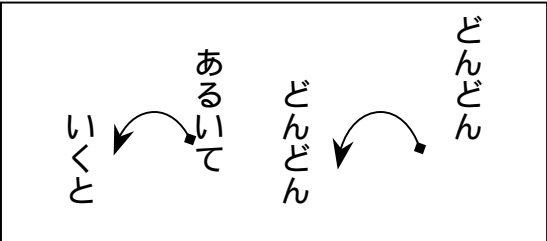


横書き、左開き

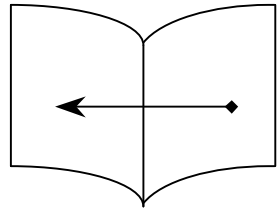
目の動きとストーリーの流れがマッチ



横長の画面構成



目の動きが複雑
 奥行き、立体感のある場面構成が可能



縦書き、右開き

絵巻物の伝統的表現！

右開きか左開きかにより、持ち方、めくり方が変わる！
 右手で持つか、左手で持つかを確認すること！
 めくるとき、ページに手がかからないよう常に意識し、めくり方を工夫すること！
 こどもたちによく見えるということが読み聞かせの絶対条件である！

めくる効果

めくると絵が変わる！絵本の面白さの基本
 閉じることができる絵本の完結性
 断片が一つになること、時間の流れが分かること
 つながりながら切れる、切れながらつながる

絵本の紹介

【絵本選書・紹介】 大阪市立中央図書館

絵本紹介文中の書誌 ID は大阪市立図書館で統一の資料番号です。大阪市立の図書館にお問い合わせの際は、この番号をお示してください。

～ おおむね 0 歳から 1 歳半 ～

がたんごとんがたんごとん 安西水丸 作 福音館書店



「のせてくださーい」哺乳瓶など、あかちゃんになじみのあるものが、つぎつぎと汽車にのりこんできます。ページをくるたびに见せるあかちゃんの反応が楽しい本。
(書誌 ID : 0000226097)

くだもの 平山和子 作 福音館書店



すいかは切って、桃は皮をむいて、「さあ どうぞ」。さし出されたみずみずしいくだものに、思わず、あかちゃんの手がのびます。
(書誌 ID : 0000229846)

ぴょーん まつおかたつひで 作 ポプラ社



カエルがピョン。バツタがピョン。いろいろな生き物が、とび跳ねます。宙に浮いている格好がユーモラスです。
(書誌 ID : 0000809948)

じゃあじゃあびりびり まついのりこ 作 偕成社



水と流れる音、紙とやぶる音……。物の名前と音がリズムカルにくり返されます。あかちゃんもつられて声を出したくなります。
(書誌 ID : 0010136188)

みる ヘレン・オクセンバリー 作 かわばたつよし 訳 童話館出版



さまざまなものを夢中で見ているこどもの表情を、ていねいに描いています。親子で絵を見ながら、あかちゃんの反応を楽しみたい絵本です。
(書誌 ID : 0000503090)

いやだ いやだ せなけいこ 作 福音館書店



るちゃん、なんでも、「いやだいやだ」と言います。はり絵を使って描かれた絵が、ダダをこねるこどもの様子をほのぼのと伝えます。
(書誌 ID : 0000214163)

いない いない ばあ 松谷みよ子 文 瀬川康男 絵 童心社



ネコやクマなどの動物が、「いないいないばあ」で遊びます。あかちゃんといっしょに、何度でも楽しんでみたくになります。
(書誌ID: 0000229912)

おててがでたよ 林明子 作 福音館書店



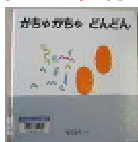
ちょっと大きな服にかくれてしまったあかちゃん。「おててはどこかな」「あたまはどこかな」と声をかけると、手・頭・足が出てきます。こどもたちもまねをしなくなります。
【書誌ID: 0000186808】

どうぶつのかどもたち 小森厚 文 藪内正幸 絵 福音館書店



イヌやウマなど、動物のかどもたちがいきいきと遊ぶ姿が次々と出てきます。ほかに「どうぶつのおかあさん」もあります。
(書誌ID: 0000279196)

がちやがちやどんどん 元永定正 作 福音館書店



音に色や形があったらどんなふうに見えるでしょう。イメージにぴったりの絵と、リズム感のある言葉に、こどもたちの心はずみまます。
(書誌ID: 0000213026)

こぐまちゃんとどうぶつえん わかやまけん他 作 こぐま社



動物園には、いろいろな動物がいて、ごはんを食べたり、うんちをしたりしています。動物園に行ってみたい気持ちになる絵本です。
(書誌ID: 0000141837)

ちいさなうさこちゃん ディック・ブルーナ 作 いしいももこ 訳 福音館書店



ふわふわさんとふわおくさんにかわいいあかちゃんが生まれ、うさこちゃんと名付けられました。おなじみのうさこちゃんのシリーズの第1作です。
(書誌ID: 0000168818)

～ おおむね 1 歳半から 3 歳～

ぶた たぬき きつね ねこ 馬場のぼる 著 こぐま社



まんが家によるユーモラスな絵が楽しいしりとり遊びの絵本。朝「おひさま」が「まど」と「どあ」を照らすと、中から「あほうどり」が…。しりとりの言葉と絵を追っていくと、愉快的なストーリーが展開します。

(書誌 ID : 0000271125)

もこ もこもこ 谷川俊太郎 作 元永定正 絵 文研出版



「しーん」としたところから「もこ」という言葉とともに何かが盛り上がる。「によき」「もぐもぐ」などの言葉と、色鮮やかな抽象画が次々と展開し、想像力をかき立てます。

(書誌 ID : 0000226468)

いぬ ジョン・バーニングム 作 谷川俊太郎 訳 富山房



男の子はいぬと出会って、一日だけいぬの世話をすることになります。食べ物をあげたり、遊んだり。やがていぬは飼い主のもとへ。でもやっぱりずっと一緒にいたい。そんな男の子の気持ちを、優しく描き出しています。「バーニングムのちいさなえほん」シリーズの一冊。

(書誌 ID : 0000296477)

ねこがいっぱい グレース・スカール 作 やぶきみちこ 訳 福音館書店



大きなネコ、小さなネコ、太ったの、細いの、のっぼやちびネコが次々にあらわれ、最後に全部あつまって、「にゃーお」で終わる。シンプルな色と形が美しく、言葉もリズムがあり、単純明快な楽しい絵本です。同じ作者による「いぬがいっぱい」もあります。

(書誌 ID : 0000186782)

どうぶつのおやこ 藪内正幸 絵 福音館書店



うさぎやいぬ、ライオンやゾウなどの様々な動物の親子が登場する。文字のない絵本。きめ細かく正確な表現で描かれた、表情豊かなサルやクマ、画面いっぱいに伸びやかに描かれたキリンなどの姿に、親子の愛情が感じられます。(書誌 ID : 0000279190)

たまごのあかちゃん かんざわとしこ 文 やぎゅうげんいちろう 絵 福音館書店



まるいたまごに「あかちゃん でておいでよ」と呼びかけると、とりやカメが生まれてきます。次は何かな？とわくわくする、鮮やかな色合いの絵本。

(書誌 ID : 0000303068)

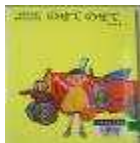
きんぎょがにげた 五味太郎 作 福音館書店



赤い金魚がにげだした！花やくだものの中にかくれた金魚を、こんどはどこ？と探す絵本。こどもたちもたちまち夢中になるでしょう。

(書誌 ID : 0000271071)

のせてのせて 松谷みよ子 文 東光寺啓 絵 童心社



まこちゃんが車で走っていると、うさぎやクマが、のせてのせてと手をあげます。みんないっしょにまっ暗なトンネルへ…。「でた！おひさまだ！」リズムよく、ドライブの楽しさが伝わってくる絵本。

(書誌ID: 0080004497)

でんしゃ バイロン・バートン 作・絵 こじまもる 訳 金の星社



いろいろな電車とすれ違い、山や町を抜けて電車は線路を走る。駅では、新しいお客を乗せて、再び走り続ける。はっきりした線と形で、こどもたちの大好きな電車の姿を力強く表現しています。このシリーズには他に、「ふね」「とらっく」があります。

(書誌ID: 0000264509)

うたえほん1～3 つちだよしはる 絵 グランママ社



「ぞうさん」「たきび」など、なじみ深いこどもの歌がいっぱい。優しい色合いの絵と楽譜で、みんなで口ずさんで楽しめる絵本です。

(書誌ID: 1 0070009849、2 0070045320、
3 0010211321)

どんどこももんちゃん とよたかずひこ 作・絵 童心社



ももんちゃんが、いそいでいます。通せんぼするクマを投げとばし、転んでもがまんして、どんどこどんどこ、どこへ走っていくのでしょうか。一生懸命な姿がほほえましく、温かい気持ちになれる本。

(書誌ID: 0010146592)

どうすればいいのかな? 渡辺茂男 文 大友康夫 絵 福音館書店



「どうすればいいのかな?」シャツや靴を手に、くまくんは考えます。そうそう、シャツは着るもの、靴ははくもの。チャーんと一人で着替えてでかけていきます。いろいろなことに挑戦する「くまくん」が主人公の「くまくんの絵本」シリーズの一冊。(書誌ID: 0000226352)

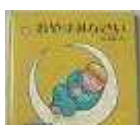
くまのティディちゃん グレタ・ヤヌス 作 ロジャー・デュボアザン 絵 湯沢朱実 訳 こぐま社



黄色いズボン、白いエプロン、青いいすを持っている、茶色のくま、ティディちゃんのおはなし。自分のコップやいすを使うことがうれしい年ごろのこどもたちに、ぴったりの絵本です。

(書誌ID: 0000704605)

おやすみなさいのほん マーガレット・ワイズ・ブラウン 文



ジャン・シャロー 絵 いしいももこ 訳 福音館書店

夜になり、小鳥や魚、船や車が静かに眠りにつきます。太い輪郭線と薄暗い色づけの絵で、眠りの様子をゆったりと描写して、「ねむたい はちたち」「ねむたい りすたち」と繰り返される言葉が、聞き手を眠りに誘います。おやすみの前にぜひ読んであげてください。

(書誌ID: 0000226266)

～ おおむね 3 歳から 5 歳 ～

アンガスとあひる マージョリー・フラック 著・絵 瀬田貞二 訳 福音館書店



アンガスは知りたがりやの子犬です。ある日、アンガスはいつも気になっていたやかましい音の正体をつきとめようと、生垣をくぐって外に飛び出しました。(書誌 ID: 0000237456)

おおきなかぶ - ロシアの昔話 - A. トルストイ再話 佐藤忠良 絵 内田莉莎子 訳 福音館書店



おじいさんのカブはとても大きく育って、1人では抜けません。そこでおばあさんと呼び、次に孫娘、犬……と順々に呼び、「うんとこしょ、どっこいしょ」とみんなで引っぺります。(書誌 ID: 0011402352)

おばけのバーバパパ アネット・チゾン、タラス・テイラー 著・絵 やましたはるお 訳 偕成社



バーバパパは、自由に姿を変えられるおばけです。家や動物園を追い出され、泣いていたバーバパパですが、人助けをしてみんなの人気者になります。消防士たちの手伝いをしたり、逃げ出したヒョウをつかまえたりと、大活躍します。(書誌 ID: 0000237550)

かいじゅうたちのいるところ モーリス・センダック 著・絵 じんぐうてるお 訳 富山房



あばれんぼうのマックスが、叱られて放り込まれた寝室に、木が生え、波が打ち寄せてきました。1年と1日航海して着いたのは“かいじゅうたちのいるところ”。マックスは王様になって、かいじゅうを躍らせてます。(書誌 ID: 0000168219)

くまのコールテンくん ドン＝フリーマン 著・絵 まつおかきょうこ 訳 偕成社



コールテンくんはデパートのおもちゃ売り場に並ぶぬいぐるみ。ある夜、とれたズボンのボタンを探して店の中を探検しますが、朝にはもとの棚に連れ戻されて、出会ったのは……。(書誌 ID: 0080003654)

ぐりとぐら 中川李枝子 著 大村百合子 絵 福音館書店



お料理すること・食べることが大好きな野ネズミのぐりとぐら。2匹は森の中で、大きなたまごを見つけます。大きなボウルやフライパンを用意して、いったい何を作るのでしょうか。(書誌 ID: 0011402358)

11匹きのねこ 馬場のぼる 著・絵 こぐま社



11匹ののらネコたちはいつもはらぺこ。おなかいっぱい食べるため、大きな魚をつかまえに出かけます。11匹のネコは、山をこえ野をこえて、いかだで大きな魚のいる湖に乗り出しました。(書誌 ID: 0000211627)

ぞうくんのさんぽ なかのひろたか 著・絵 福音館書店



散歩に出かけた気のいいぞうくんは、途中で出会った友達を背中に乗せてあげます。かばくんを乗せ、その上にはわにくん、その上にはかめくくんも。力持ちのぞうさんもあまりの重さに……。(書誌 ID: 0011402365)

ティッチ

パット・ハッチンス 著・絵 いしいももこ 訳 福音館書店



末っ子のティッチは、小さな男の子です。いつも姉さんと兄さんに差をつけられ、つまらないことばかりです。ところが、彼の持っていた小さな種がぐんぐん成長して、ティッチは大得意。

(書誌 ID : 0000228681)

どろんこハリー

ジーン・ジオン 著 マーガレット・プロイ・グレアム 絵
わたなべしげお 訳 福音館書店



お風呂に入るのがいやで、外へ逃げ出した犬のハリー。泥だらけになって帰ってきたら、おうちのひとにハリーだとわかってもらえません。さて、おなかがぺこぺこのハリーはどうしたのでしょうか？

(書誌 ID : 0000229963)

はなをくんくん

ルース・クラウス 著 マーク・サイモント 絵 きじまはじめ 訳 福音館書店



まっ白い雪の中、冬眠していたノネズミたちが目をさまし、「はなをくんくん」。リスやクマ、カタツムリ、みんながかけていくその先には、小さな春がまっていました。(書誌 ID : 0000226426)

はらぺこあおむし

エリック・カール 著・絵 もりひさし 訳 偕成社



日曜日の朝、卵からかえったあおむしは、おなかがぺこぺこです。月曜日はリンゴを1つ、火曜日は梨を2つと、毎日いろいろなものを食べて大きくなります。(書誌 ID : 0000226440)

ももたろう

松居直 著 赤羽末吉 絵 福音館書店



桃から生まれた桃太郎は、力持ちでかっこいい子に育ちます。ある日、悪い鬼がいると聞き、犬・猿・キジをお供にして、鬼が島へと向かいます。調子の良い語り口が楽しい、おなじみの日本昔話。

(書誌 ID : 0000183447)

もりのなか

マリー・ホール・エッツ 著・絵 まさきりこ 訳 福音館書店



ひとりで森にでかけたぼくは、ライオン、ゾウ、クマ、いろいろな動物たちと出会いました。彼らとの楽しい遊びの時間が、静かに味わい深く語られます。(書誌 ID : 0000231836)

わたしのワンピース

にしまきかやこ 著・絵 こぐま社



空からふわふわ落ちてきた真っ白なきれいで、ウサギがワンピースを作りました。お花畑を散歩するとワンピースが花模様、雨がふると水玉模様、と次々に変わります。(書誌 ID : 0000191878)

わにわにのお風呂

小風さち 著 山口マオ 絵 福音館書店



わにわには、お風呂が大好きなワニ。きゅるりきゅるりとじゃぐちをひねり、じゃばじゃばとお湯を入れ、じょろーん！と飛び込みます。不思議な響きの言葉のくり返しにユーモラスで、何度も声に出して読みたくなります。(書誌 ID : 0010844368)

